

# DIA

シラン系浸透性吸水防止材

# ダイヤ ハイセラガード

F☆☆☆☆

ダイヤハイセラガードは、特殊シラン系化合物を主成分とした浸透性吸水防止材です。張りタイルの目地部をはじめ、コンクリート、石材、レンガ等の無機質構造材に処理することにより、躯体中の湿気や水分と反応し活性化すると同時に、構造材の成分と結合して固化し、美観を損うことなく構造物に吸水防水層を形成する反応性の保護材です。低粘度の液体ですので施工はとても簡単。各種仕上げ塗材を施工することも可能です。

防水性

吸水防止性

通気性

● 極めて優れた浸透性を持っています。

分子構造が10オングストローム程度と非常に小さいため、すばやく浸透します。

● 雨水等の外部からの水の侵入を防ぎます。

ハイセラガードの吸水防止層は、雨水の侵入を防ぎます。

● 優れた通気性を持っています。

表面被覆形や充填形と異なり、コンクリート中の水分と反応して吸水防止性をだすため、水は通さず高い通気性は保持します。

● 耐久性に優れた保護層を形成します。

処理面内部に深く浸透した保護層は、紫外線の影響を受けにくく、また、熱や温度変化に対しても影響されず、長期間吸水防止性能が持続します。

● 現状の外観を損うことなく仕上がります。

ハイセラガードは無色透明、またコンクリートとの反応で変色することはありません。躯体表面はそのまま外観を維持します。

# ダイヤハイセラガード

## ■標準施工工程

### タイル張り仕上げ外壁の場合

工程	材料名	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具
					工程内	工程間	
下地調整	タイル張り仕上げ壁面の劣化・破損箇所は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築改修工事監理指針 令和4年版」(一般財団法人/建築保全センター編集・発行)4節 タイル張り仕上げ外壁の改修に準じて改修する。タイル部分張替え工法、目地ひび割れ改修工法、樹脂注入工法、Uカットシール材充填工法、アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法などの工法を適切に選定し、改修する。						
洗 浄	汚染物質を洗浄し、十分に乾燥させる。						
上塗り	ダイヤハイセラガード	12kg	0.2~0.3kg/m <sup>2</sup> 40~60m <sup>2</sup> /缶	2~3	3時間 以上	—	中毛ローラー エアレス

## ■適用下地

タイル張り仕上げ壁面、現場打ちコンクリート、PC、モルタル、石綿スレート、石材(大谷石等)、れんがなど

## ■包装単位

ダイヤハイセラガード………12kg缶

## ■施工・保管上の注意点

### 【塗装面の調整(新設)】

- ①素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタンス等を完全に除去して下さい。
- ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下(pH10以下)になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で2週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
- ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
- ④打放しコンクリート面は、できる限り均質均一な面であることが望ましく、巣穴、ジャンクがないことが理想ですが、補修する場合は躯体と同色で吸込みが同程度のセメントペースト、モルタルで補修して下さい。
- ⑤目地口はコンクリートの表面を汚す型土、傷をつくるケガキは避けてコンクリート面に跡が残らないものを使用して下さい。
- ⑥屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
- ⑦はり突出し部分、木繊維などの除去は、周りを傷つけないようディスクサンダーを使用せず、タガネでは取り取って下さい。
- ⑧離型剤、油脂等が付着している場合シンナーで拭き取って下さい。
- ⑨破損部分、亀裂部分、巣穴はモルタル又はセメントノロで補修して下さい。この時、補修面がそのまま現われますので、できるだけ色を合わせて補修して下さい。
- ⑩エポキシ樹脂、レタンスはワイヤーブラシ、サンドペーパー、サンダー等でけずり落として下さい。又、エポキシ樹脂を除去するの困難な場合は、予め表面に散水して飽水してからSON程度の稀塩酸を布に湿し、表面を軽く拭き、その後水洗いをして下さい。酸洗いをする場合は梅雨期等の湿気の多い時期は控えて下さい。
- ⑪欠損部分がひどい場合は、ポルマーセメント比59/41以下の補修材による処置を施して下さい。
- ⑫張りタイル面に施工する場合は、フック酸系、フッ化アンモニウム系の洗浄剤は避けて下さい。また、酸性やアルカリ性が残るとタイル面に白化や汚染を生じますので、十分に中和して下さい。

### 【材料の保管管理】

- ①開封した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
- ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、室内に貯蔵して下さい。長期貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
- ③ダイヤハイセラガードは危険物ですので、火気や換気も十分注意して下さい。

### 【施工】

- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合は施工を避けて下さい。また作業後に降雨、降雪の恐れがある時は雨雪を養生して下さい。
- ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。
- ③ダイヤハイセラガードは、希釈しないで使用して下さい。
- ④塗付方法は必ず2回塗りまたは下地の状況(ALC、軽量コンクリートブロックなど吸込みが強い場合等)によっては3回塗りして下さい。塗布量は下地の種類によって工程表の標準値よりも増えることがあります。
- ⑤新しいコンクリート、モルタル面は、夏期・冬期・2週間以上放置乾燥後塗布して下さい。下地水分があると浸透を阻害しますので十分に下地を乾燥させてから塗布して下さい。
- ⑥材料は付着乾燥し、またと取れませんが、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に付けない。施工時建物の周辺に飛散しないよう注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。

- ⑦乾燥時間は温度、湿度、および風向により差異が生じます。
- ⑧エポキシ樹脂を使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
- ⑨下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
- ⑩本施工に入る前に試験塗りをを行い、施工の塗布量を確認して下さい。
- ⑪常に結露が発生する地域時期での施工は避けて下さい。
- ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
- ⑬塗装下地の割によって、塗布量が変わる場合があります。
- ⑭塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
- ⑮使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。

### 【安全衛生上の注意】

- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないよう、必要に応じて防護マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
- ②取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
- ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ④作業中作業後は十分換気を行ってください。
- ⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ⑥目に入った場合は、直ちに多量の水で5分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑦誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑧中身を使い切った後から廃棄して下さい。
- ⑨皮膚に付着した場合は、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
- ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。

### 【その他】

- ①塗布用具や容器は洗浄で乾燥したものを使用して下さい。また、用具の洗浄は、ラッカーシンナーでして下さい。
- ②ガラス、プラスチック、金属及び木材には養生して下さい。これらに付着したハイセラガードを除去する場合は、ラッカーシンナーを使用して下さい。
- ③材料は使いきれる量をバケツに入れて施工して下さい。材料をバケツに残したまま放置し、翌日使用しますとベタつき、脆ムラの原因となりますので注意して下さい。ローラーは常に清潔なものを使用して下さい。
- ④注入用エポキシ樹脂はタイル表面に残らないよう注意して下さい。汚染した部分は溶剤で完全に除去して下さい。白化・黄変の原因となります。
- ⑤材料は透明なので、塗の厚みや色むらに十分に注意して施工して下さい。
- ⑥その他、詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせ下さい。
- ⑦施工に際し、施工管理上の詳細な注意点については仕様書等をご確認ください。
- ⑧施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート(SDS)をご確認ください。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。

(24.11月現在) 24.11.100 SJ